

7. サツマイモヒサゴトビハムシ *Chaetocnema confinis* Crotch, 1873 (Fig. 6)

1 ex., 請阿室集落, 29. XI. 2017, 吉武採集; 2 exs., 請阿室石川道, 3. XII. 2017, 吉武・有本採集.

請島初記録. 小笠原諸島父島および宮崎県, 鹿児島県, 種子島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄島, 台湾, ボルネオ, マレーシアに生息しており, 太平洋地域に分布を広げている(大林・藤本, 2012; 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2011; 滝沢, 2012). サツマイモやゲンハイヒルガオなどのヒルガオ科植物を寄主植物とし, サツマイモやエンサイの害虫としても扱われている(Jolivet, 2008; 小濱, 2010). 沖縄島では, 11月や1月といった冬季に採集された例もある(今坂・石関, 2012).

8. タイワンツブノミハムシ *Aphthona formosana* Chen, 1934 (Fig. 7)

2 exs., 請阿室赤土原, 30. XI. 2017, 吉武採集.  
請島初記録. 日本および台湾, ミクロネシアに分布しており, 我が国においては, 四国および九州, 五島列島, 甌島, 南西諸島から記録されている.

9. アマミツブノミハムシ *Aphthona amamina* Ohno, 1962 (Fig. 8)

7 exs., 請阿室赤土原, 30. XI. 2017, 吉武採集.  
請島初記録. これまで奄美大島と徳之島からしか分布記録がなかった. 本種の冬季採集例はこれまでになく, 成虫の出現期は3~6月とされているが, 今回は11月末に採集された. 同属他種と同様に成虫越冬している可能性がある.

引用文献

大林隆司・藤本周一, 2012. 未解明病害虫の原因究明および防除技術の検討~父島におけるサツマイモヒサゴトビハムシによるヨウサイ被害の発生~. 小笠原亜熱帯農業センター平成24年度試験成績書. [www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/farm/pdf/32s24-10.pdf](http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/farm/pdf/32s24-10.pdf) (2018年1月17日アクセス)

今坂正一, 2010. 最新ハムシ事情図説7 カサハラハムシ属紹介2. 今坂正一とEアシスト. [www.coleoptera.jp/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic\\_id=106](http://www.coleoptera.jp/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=106) (2018年1月12日アクセス)

今坂正一・石関博, 2012. サツマイモヒサゴトビハムシのエンサイへの加害, および国内における分布と単為生殖個体群の存在について. さやばねニューシリーズ, (5): 18-21.

木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 pp. 東海大学出版, 東京.

Kojima, H., & M. Watanabe, 2015. Weevils (Coleoptera, Curculionidae) from Uke-jima and Yoro-jima Islands, the Amami Islands, the Ryukyus, Southwestern Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 5: 525-529.

小濱継雄, 2013. オキナワクビナガハムシの久米島と渡名喜島からの記録と新食草の記録. *Pulex*, (92): 614-615.

小濱継雄, 2010. 沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫. 沖縄県農業研究センター研究報告, (4): 27-31.

Jolivet, P, 2008. Sweetpotato Flea Beetle, *Chaetocnema confinis* (Coleoptera: Chrysomelidae: Alticinae). *Encyclopedia of Entomology*, Springer Science+Business Media B. V. 10.

滝沢春雄, 2006. 日本産ハムシ科生態覚書 (1). 神奈川虫報, (156): 1-8.

滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書 (2). 神奈川虫報, (157): 17-26.

滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書 (3). 神奈川虫報, (158): 37-48.

滝沢春雄, 2009. 日本産ハムシ科生態覚書 (4). 神奈川虫報, (168): 1-11.

滝沢春雄, 2011. 日本産ハムシ科生態覚書 (5). 神奈川虫報, (173): 35-51.

滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). 神奈川虫報, (177): 33-51.

滝沢春雄, 2013. 日本産ハムシ科生態覚書 (7). 神奈川虫報, (179): 17-33.

滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). 神奈川虫報, (182): 37-46.

中峯浩司, 2006. 奄美群島請島2004年9月の昆虫類. 鹿児島県立博物館研究報告, (25): 63-67.

福元しげ子・山根正気, 2015. 奄美群島請島のアリ. *Nature of Kagoshima*, 41: 195-197.

宮内博至・金子美織・斎藤明子, 2014. 千葉県南部におけるオキナワイチモンジハムシの記録. 月刊むし, (520): 40-43.

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2011. 宮崎県平成23年度病害虫発生予察特殊報第2号. [www.jpnpn.ne.jp/miyazaki/10/tokusyuu/23nen/h23tokusyuu02.pdf](http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki/10/tokusyuu/23nen/h23tokusyuu02.pdf) (2018年1月12日アクセス)

(2018年1月19日受領, 2018年3月2日受理)



齋藤修司, 2018. 2017年日本甲虫学会調査観察会で確認された甲虫について. *InsectTOHOKU*, (43): 1-40.

2017年の本学会の調査観察会で確認された甲虫類がリストアップされた. 福島県初記録44種を含む65科712種を纏めている. 学会の活動が地域ファ

ウナの解明に直結しており, 本学会と地方同好会との関係構築の見本となるであろう. 調査観察会の今後の活動に期待したい. また, 取り纏めを行った齋藤修司氏をはじめ, 参加者や同定作業を行った学会員にも敬意を表したい.

なお, 本誌は昆虫文献六本脚で入手できる.

(吉富博之)